

渡辺 崋山 ってどんな人？

榑橋山筆「渡辺崋山像」重要文化財 田原市博物館所蔵



渡 辺崋山は、田原藩の家老として藩政改革に尽力した人物です。

崋山と鷹見泉石は、開国論者である点など、共通の考えを持ち親交が深かったとされています。

「鷹見泉石像」は、大塩平八郎の乱を平定した報告を兼ねて土井家の菩提寺に代参した泉石が、その帰りに崋山を訪ねた際、珍しく正装姿だったことから描かれたといわれています。



渡辺崋山筆「一掃百態図」部分 重要文化財 田原市博物館所蔵

鷹見 泉石 ってどんな人？

土井利位像 正定寺蔵



鷹 見泉石は、幕末期の古河藩主である土井利厚と利位に仕えた人物です。

長年にわたり幕府老中を務めた両者の下で、情報収集や整理分析を行い、幕政

にも関与していたとされています。また、日本で初めて刊行されたオランダ地図「新訳和蘭国全図」を出版したほか、利位の『雪華図説』の発刊を助けました。



鷹見泉石作「新訳和蘭国全図」重要文化財 古河歴史博物館所蔵

雪華の歴史

古 河市内でよく目にする雪華模様は、古河藩主である土井利位が日本で初めて雪の結晶を観察し、それを「雪華」と名付けたことに由来しています。

天保3(1832)年、日本初の雪の結晶をまとめた観察図鑑『雪華図説』を発刊。利位が描いた86個の結晶や自然科学の法則を解説したオランダの教科書『格致問答』に掲載されている12個の結晶のほか、観察方法や雪の効能について説明しています。



土井利位著『雪華図説』 古河歴史博物館所蔵



「雪華文詩絵印籠」 重要文化財 古河歴史博物館所蔵

『雪華図説』と天保11(1840)年に新たに97種の雪の結晶を収録して発刊された続編『続雪華図説』は、自然科学書として共に高い評価を得ています。

利位の教育係でもあった鷹見泉石は、藩主としての教養を深めるための特別教育の1つとして、雪の結晶の観察を利位に勧めました。『雪華図説』の発刊に際して、蘭学に親しんだ泉石が広い人脈を使い、編集者やプロデューサーのような役割を果たしたといわれています。

83年ぶりに里帰りする

国宝

古河歴史博物館開館 30周年記念

2021年1月9日(土) 2月7日(日)

開館時間 9時～17時 (入館は16時30分まで)

休館日 1/12(火)・22(金)

入館料 一般400円/小中高生100円/ 市内在住70歳以上無料

※証明できるものをご提示ください。

※毎週土曜日は、小中高生の入館料無料。

※身体障がい者手帳等をお持ちの場合は、本人と付添人(1人)の入館料免除。

※新型コロナウイルスの感染状況により、入場制限・臨時休館となる場合があります。



鷹見泉石像：渡辺崋山筆/絹本淡彩/一幅/天保8年(1837)/国宝 東京国立博物館所蔵 Image: TNM Image Archives 画像提供：東京国立博物館

古 河藩家老で蘭学者の鷹見泉石が、83年ぶりに古河市に初めて里帰りします。

この作品は、古河の鷹見邸で保管されていましたが、関東大震災後に復興した東京帝室博物館東京国立博物館本館の開館を記念して、昭和13(1938)年に移管されました。その後、昭和26(1951)年6月、文化財保護法による最初の国宝指定が行われ、中尊寺金色堂や平等院鳳凰堂、姫路城等という名だたる文化財とともに最初の国宝となりました。

今までに国宝に指定された絵画作品の中で最も新しく、西洋画の鮮色や陰影法を用いた傑作です。頬や目の周りに付けられた絶妙な影や目元のくぼみなどから生まれる顔全体の立体感、作者の渡辺崋山が腐心して見事に調和させたものであり、この作品の生命といわれています。

今回の特別展示では国宝「鷹見泉石像」のほか、葛飾北斎の「七面大明神応現図」や河鍋晩斎、奥原晴湖の作品など、16点に及ぶ古河に縁のある貴重な文化財が展示されます。

長い歴史の中で伝えられ、守られてきた国宝をはじめとする多くの美術工芸品を鑑賞することができます。またとない機会ですので、ぜひ、ご来館ください。